

考古展

第7回

小さな展覧会

—昭和62年度発掘調査の成果から—

1988・8

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター



金銅装双龍環頭大刀柄頭（高山12号墳）



銅製經筒（私市円山経塚）

昭和62年度の発掘調査について

（財）京都府埋蔵文化財調査研究センターで、昨年度に発掘調査を実施した遺跡数は、46にのぼります。個々の遺跡の調査の概要については、次頁の一覧表のとおりです。調査は、農地開発・ほ場整備・道路建設・河川改修・学校の校舎建築・ニュータウンの造成・工業団地造成・庁舎建築等にもなって記録保存を目的として行ったものです。

丹後地域の国営開発事業にともなう調査は、アバ田古墳群・普甲古墳群・高山古墳群などの古墳の調査が中心となりました。このうち高山古墳群では、そうりゅうかんとうた 双龍環頭大刀柄頭が2点出土し、大きな話題となりました。道路建設にともなう調査では、近畿自動車道舞鶴線の建設にともなう綾部市西部で多くの遺跡の調査を行いました。また、国道9号線バイパス建設関係の千代川遺跡の調査では、年号の書かれた木簡が出土しました。木津ニュータウン造成にともなう調査では、様々な時代の遺構・遺物が見つかりましたが、奈良時代の瓦については、平城宮の再造営を考える上で注目すべき資料です。

このように、昨年度も発掘調査によって大きな成果を得ることができました。こうした調査の成果によって京都府の過去の姿が明らかになるものと思います。



第6回 小さな展覧会 風景

昭和62年度発掘調査遺跡一覧表

勸京都市埋蔵文化財調査研究センター調査

番号	遺 跡 名	種 別	所 在 地	担 当 者	調 査 期 間	概 要
1	鳥取城跡	城館跡	久美浜町浦明字鳥取	荒川 史 引原 茂治	62. 5. 18 ～62. 6. 24	掘立柱建物跡・溝・土塙
2	アバ田古墳群	古 墳	久美浜町新庄字アバ田	荒川 史	62. 7. 10 ～62. 11. 11	古墳2基(横穴式石室)
3	アサバラ遺跡	散布地	久美浜町新庄字アサバラ	荒川 史	62. 11. 10 ～63. 1. 28	竪穴式住居跡・柱穴・土塙
4	普甲古墳群	古 墳	弥栄町井辺字フコウ	森 正 増田 孝彦	62. 6. 1 ～62. 12. 9	古墳7基(木棺直葬)
5	稲荷古墳群	古 墳	弥栄町井辺字フコウ	森 正 増田 孝彦	62. 6. 1 ～62. 12. 9	古墳4基(木棺直葬)
6	新ヶ尾東古墳群	古 墳	弥栄町吉沢字半坂	増田 孝彦	62. 10. 6 ～63. 1. 25	古墳3基(木棺直葬2基・竪穴系横穴式石室1基)
7	遠所古墳群	古 墳	弥栄町木橋字遠所	増田 孝彦	62. 8. 18 ～62. 10. 23	古墳1基(竪穴系横穴式石室)
8	高山古墳群	古 墳	丹後町徳光字高山	増田 孝彦 森 正	62. 4. 13 ～62. 6. 2 62. 6. 18 ～62. 9. 12	円墳2基(横穴式石室) 金銅装双環頭大刀柄頭
9	橋爪遺跡	集落跡	久美浜町橋爪字須田	細川 康晴	62. 7. 29 ～62. 9. 12	顕著な遺構なし
10	谷内遺跡	集落跡	大宮町谷内	細川 康晴 肥後 弘幸	62. 5. 7 ～62. 7. 24	竪穴式住居跡・土塙・溝 縄文土器(早期)
11	桑飼上遺跡	散布地	舞鶴市桑飼上	細川 康晴 肥後 弘幸	62. 7. 6 ～63. 2. 10	竪穴式住居跡・掘立柱建物跡 土塙
12	シゲツ窯跡	窯 跡	舞鶴市志高	肥後 弘幸	62. 9. 21 ～63. 1. 21	須恵器窯跡
13	シゲツ墳墓群	墳 墓	舞鶴市志高	肥後 弘幸	62. 9. 21 ～63. 1. 21	墓壇1基(弥生後期)
14	泉源寺遺跡	散布地	舞鶴市泉源寺	岡崎 研一	62. 10. 13 ～62. 12. 18	古墳1基(横穴式石室) 掘立柱建物跡
15	栗ヶ丘横穴群	横 穴	綾部市小呂町田坂	引原 茂治	62. 7. 13 ～62. 10. 29	横穴墓3基・土塙墓10基
16	蒲生遺跡	集落跡	丹波町字豊田	森 正	62. 12. 14 ～63. 2. 4	顕著な遺構なし
17	小貝遺跡	散布地	綾部市私市町・小貝町	黒坪 一樹	62. 9. 2 ～63. 2. 16	方形周溝墓1基・掘立柱建物跡
18	私市円山古墳	古 墳	綾部市私市町	鍋田 勇	62. 11. 9 ～63. 3. 11	古墳(造り出しをもつ大円墳) 経塚
19	小西町田遺跡	散布地	綾部市小西町	三好 博喜	63. 5. 8 ～62. 12. 23	掘立柱建物跡・溝・土塙
20	三宅4号墳	古 墳	綾部市豊里町三宅	竹原 一彦	63. 1. 10 ～63. 3. 11	円墳(埋葬施設は既に破壊)
21	三宅遺跡	散布地	綾部市豊里町三宅	竹原 一彦	62. 5. 7 ～63. 3. 11	土塙群(古墳時代)・方形周溝墓 ・古墳
22	福垣城館跡	城館跡	綾部市豊里町福垣	黒坪 一樹	63. 1. 8 ～63. 3. 11	堀・曲輪・礎石建物跡
23	福垣北古墳群	古 墳	綾部市豊里町	石井 清司	62. 11. 4 ～63. 3. 11	古墳4基(木棺直葬)
24	平山城館跡	城館跡	綾部市七百石町	鍋田 勇	62. 4. 14 ～62. 8. 27	竪堀・礎石建物跡・柵
25	青野遺跡	集落跡	綾部市青野町字吉見前	引原 茂治	62. 10. 19 ～63. 2. 25	竪穴式住居跡・溝・土塙
26	上中遺跡	集落跡	京北町下弓削	岡崎 研一	62. 8. 3 ～62. 10. 5	竪穴式住居跡・土塙・柱穴 火葬墓
27	園部城跡	城 跡	園部町字小桜	鶴島 三寿	62. 10. 2 ～62. 11. 19	石組遺構・土塙・井戸
28	亀山城跡	城 跡	亀岡市北古世町	森下 衛	62. 8. 3 ～62. 9. 28	古墳時代の竪穴式住居跡 奈良時代の掘立柱建物跡
29	千代川遺跡	官衙跡	亀岡市千代川町北ノ庄	鶴島 三寿 森下 衛	62. 5. 18 ～63. 3. 10	掘立柱建物跡(奈良時代～鎌倉 時代)・紀年銘木簡
30	平安京跡	都城跡	京都市北区大將軍坂田町	石井 清司	62. 7. 20 ～62. 9. 29	(右京一条三坊九町) 掘立柱建物跡・溝

番号	遺跡名	種別	所在地	担当者	調査期間	概要
31	平安京跡	都城跡	京都市上京区烏丸中立売通上ル龍前町	伊野 近富 石井 清司	62. 4. 2 ～62. 6. 6	(左京北辺三坊五町・内膳町) 井戸・掘立柱建物跡・金箔瓦
32	平安京跡	都城跡	京都市上京区下立売通新町西入ル藪ノ内町	伊野 近富 岩松 保	63. 1. 5 ～63. 3. 17	(左京近衛大路・西洞院大路辻) 道路・井戸・溝・泥面子
33	長岡京跡 右京第281次	都城跡	長岡京市友岡一丁目	石尾 政信	62.10. 9 ～62.11. 6	(右京七条二坊十六町) 顕著な遺構なし
34	長岡京跡 右京第285次	都城跡	長岡京市今里更ノ町・井ノ内	石尾 政信	62.11.12 ～63. 3. 5	(右京二条一坊十四町ほか) 道路側溝・木簡・墨書土器
35	長岡京跡 右京第266次	都城跡	長岡京市開田三丁目	竹井 治雄	62. 6. 8 ～63. 7. 23	塚本古墳(前方後円墳)・周濠
36	長岡京跡 右京第277次	都城跡	長岡京市粟生川久保	竹井 治雄	62. 9. 9 ～63. 1. 22	(右京二条三坊一・九町) 掘立柱建物跡・竪穴式住居跡
37	長岡宮跡 第205次	都城跡	向日市鷄冠井町大極殿	竹井 治雄	63. 2. 12 ～63. 3. 15	溝・掘立柱建物跡
38	南稻八妻城跡	城館跡	精華町南稻八妻	黒坪 一樹	62. 5. 14 ～62. 7. 15	顕著な遺構なし
39	恭仁京跡・八後遺跡	都城跡	木津町八後・宮の内	岩松 保	62. 7. 15 ～62.11. 5	道路状遺構・溝
40	興戸遺跡	集落跡	田辺町興戸犬伏	伊賀 高弘	62. 8. 18 ～62.10.13	土城
41	八ヶ坪遺跡	散布地	木津町相楽字八ヶ坪	小池 寛	62.11. 9 ～62.12.23	柱穴・溝
42	上人ヶ平遺跡	集落跡	木津町市坂字上人ヶ平	小池 寛 伊賀 高弘	62. 4. 17 ～62.11.30	竪穴式住居跡(弥生1基・古墳6基)・古墳5基・瓦
43	瓦谷遺跡	集落跡	木津町市坂字瓦谷	伊賀 高弘	62.10.14 ～63. 2. 25	自然河川・井戸・唐櫃
44	西山遺跡	散布地	木津町市坂字西山	小池 寛	63. 1. 19 ～63. 2. 19	溝・合口甕棺墓
45	瀬後谷遺跡	散布地	木津町市坂字瀬後谷	石尾 政信	62. 7. 13 ～62. 9. 2 62.11.17 ～63. 1. 23	自然河川 興福寺式軒平瓦
46	菩提遺跡	散布地	木津町市坂字菩提	戸原 和人	63. 2. 19 ～63. 3. 5	顕著な遺構なし



1号墳石室検出状況

谷間に築かれた横穴式石室

アバ田古墳群は、新庄の集落の西にあって、谷筋の奥まったところに2基並んで築かれています。古墳は、いずれも横穴式石室を埋葬主体としています。

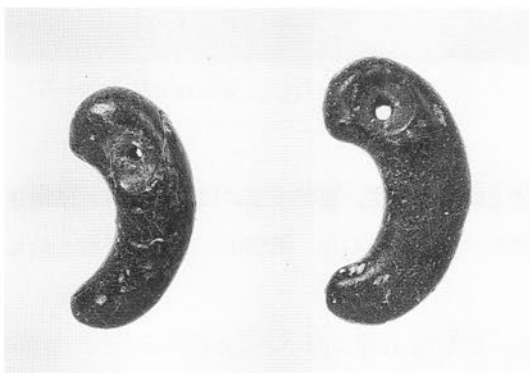
このうち、1号墳は、石室を覆う墳丘の形状や規模が、後世に行われた開塋などによってわからなくなっていました。1号墳の石室は、玄室から外を見て右側に袖部を設けた右片袖式と呼ばれる型式のもので、北に向かって開口するのが特徴です。石室の中から約50点の土器が出土しています。

2号墳は、一部破壊されていましたが、周溝の残存部から見て、直径12mの円墳であることがわかりました。石室は、天井部まで残っており、1号墳と同じく右片袖式に属しています。ただ、1号墳とは違って北東方向に開口していました。石室内からは、約90点の土器のほか、勾玉・鉄刀・鉄鎌などの副葬品も出土しました。

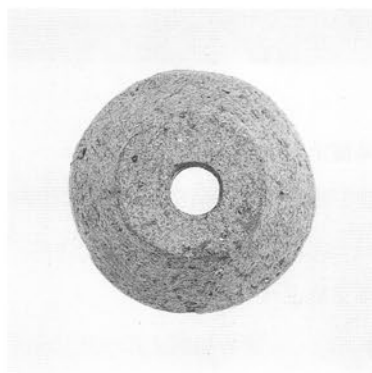
いずれも、6世紀後半頃(約1,400年前)に築かれたもので、丹後地方の横穴式石室としては古い一群に属しています。立地条件・石室の開口方向も、他にあまり見られない珍しい例と言えます。



1号墳出土須恵器



勾玉



紡錘車



鉄刀



調査地全景(北西から)

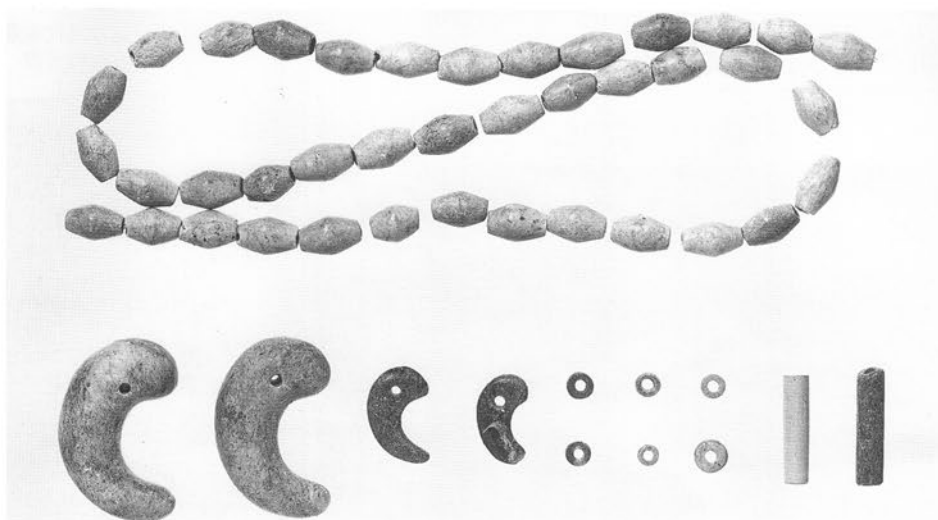
尾根上の中期古墳

普甲古墳群は、竹野川流域の左岸の丘陵上にあります。現在までに13基の古墳が確認されています。このうち、7基について発掘調査が行われました。墳形は、方墳を意識したものが多く見られます。

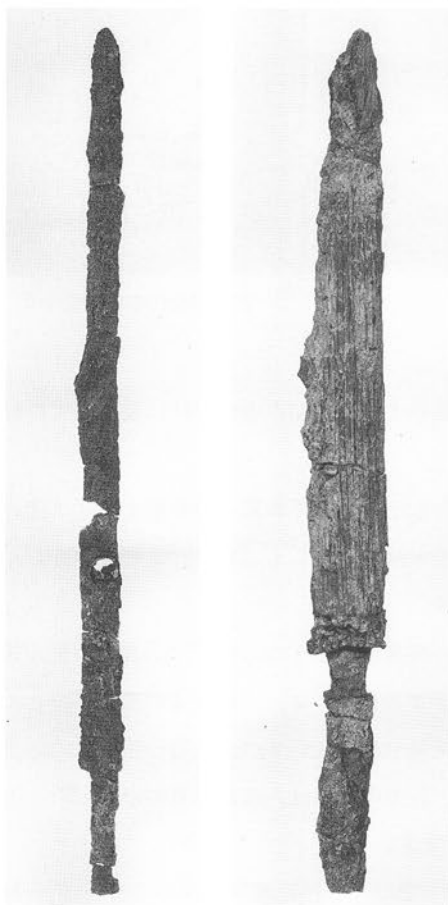
古墳は、丘陵の尾根上に一列に造られていますが、丘陵の高いところにある1～3号墳は、尾根と直角に交わるまっすぐな溝を掘って墳丘を整えています。それに対して、傾斜の急なところにある4～7号墳は、丘陵を階段状に削って墳丘を造っています。

死者を納める埋葬施設は、長方形の穴(墓^ぼ坑^{こう})を掘って、その中に木棺を安置するもので、普通、木棺直葬^{もっかんじきそう}と呼ばれています。木棺には、板材を箱形に組み合わせたもののほか、木を二つに割ってくり抜いた割竹形^{わりたけがた}と呼ばれるものが使用されていたことが、土中に残された痕跡によって、確かめられました。全体に副葬品に乏しかったのですが、墓坑^{ぼこう}から刀・剣・鉄^{やじり}などの鉄器や玉類が出土しています。

古墳時代中期(約1,500年前)に、丹後半島を中心とする地域に数多く造られた小規模な古墳群の好例と言えるでしょう。



玉類



鉄刀

鉄剣



土師器・壺



土師器・高杯



新ヶ尾東10号墳石室全景

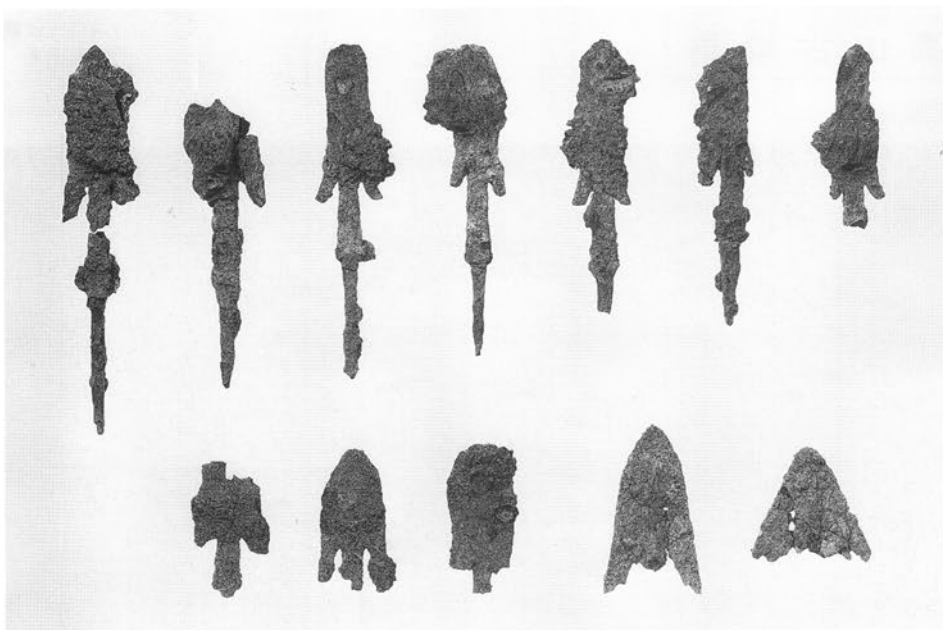
丹後の竪穴系横口式石室

竹野川右岸の丘陵上には、新ヶ尾東古墳群があります。この古墳群では、現在までに11基の古墳が確認されています。

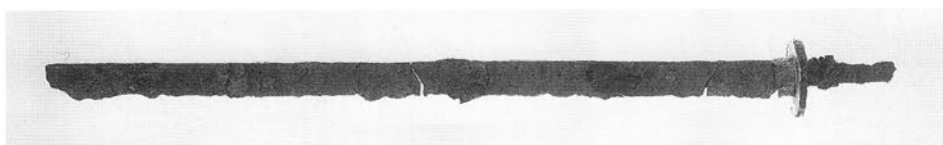
8号墳・9号墳は、丘陵を円形に削り出し、少し土を盛ってお墓の形を整えています。埋葬施設は、普甲古墳群と同じように、穴を掘って木棺を納めるものです。この埋葬施設からは、須恵器・鉄鏃といった遺物が出土しています。

10号墳は、たてあなけいよこぐちしきせきしつ竪穴系横口式石室と呼ばれる珍しい埋葬施設をもつものです。普通の横穴式石室には、せんどう羨道と呼ばれる通路の部分がありますが、この石室には、その羨道の部分がほとんどありません。同じような石室は、京都府下で5例見つかっています。石室の床面には、2列の石列があり、この上に木棺を置いたようです。石室内からは、玉類、耳飾り(金環)、刀・鏃・鎌などの鉄器、約50点の土器が出土しています。

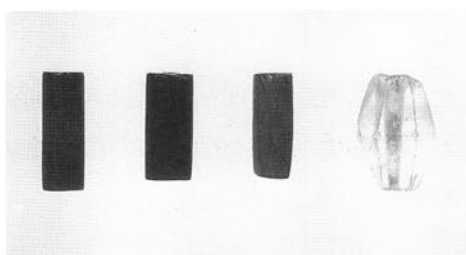
8・9号墳は、6世紀中頃(約1,450年前)、10号墳は、6世紀後半(1,400年前)に造られたと考えられています。



鉄鏃



鉄刀



玉類



須恵器・杯身



須恵器・甕



高山12号墳石室全景

環頭大刀出土の古墳

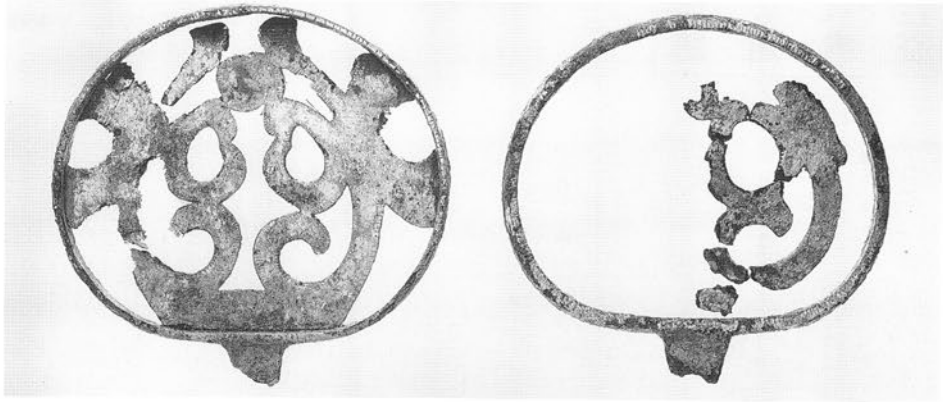
竹野川の支流である徳良川の左岸の丘陵上には、高山古墳群と呼ばれる9基の古墳からなる遺跡があります。この古墳群のうち、昨年度は4基の古墳の調査を行い、7・12号墳は横穴式石室をもつ円形の古墳であることがわかりました。

12号墳は、丹後半島でも最大級の横穴式石室をもつ古墳です。石室は、全長12m・高さ2.9mを測ります。石室内からは、玉類・鉄製の武器・馬具・土器などの多数の遺物が出土しました。

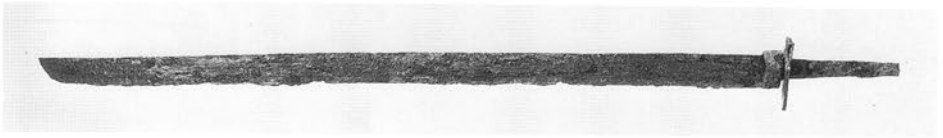
出土遺物の中で、2点出土した金銅装の環頭大刀の柄頭は、向かい合った2匹の龍を透かし彫りしたものです。京都府下では、有名な湯舟坂2号墳と夜久野町出土品の2例が知られているだけです。一つの古墳で2点出土したことは、全国でも3例しかありません。また、特殊扁壺と呼ばれる須恵器も全国で7例しか見つかっていません。

高山12号墳は、6世紀後半に造られて、7世紀にかけて何回か埋葬が行われたと考えられます。

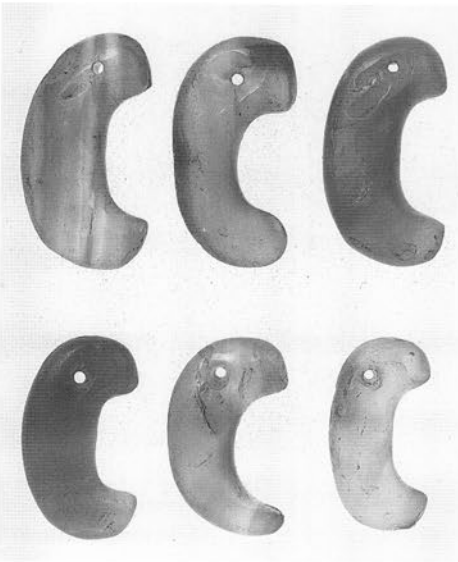
なお、古墳は、現地で保存されることになりました。



金銅装双龍環頭大刀柄頭



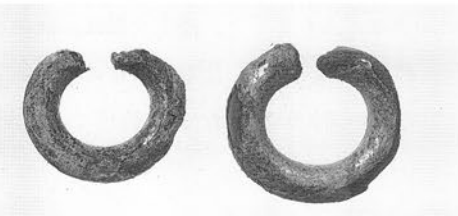
鉄刀



勾玉



須恵器・特殊扁壺



金環



須恵器・平瓶



古墳時代竪穴式住居跡遺物出土状況

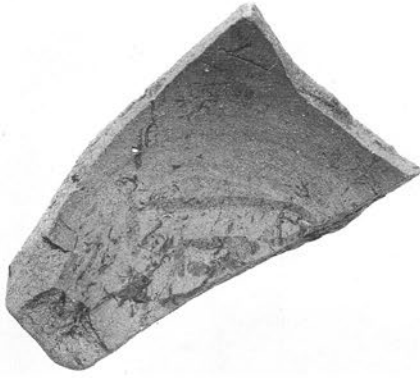
縄文時代に始まる集落

谷内遺跡は、丹後半島のつけ根のところの中郡盆地の東南部にあって、竹野川を西に見おろす、やや小高い山裾に立地しています。

調査の結果、現在の水田面から約60cm掘り下げたところで、弥生時代後期(約1,900年前)から古墳時代中期(約1,600年前)の竪穴式住居跡や溝・穴などが見つかりました。このうち、弥生時代の竪穴式住居跡は、その平面の形が円形のものですが、古墳時代のものは正方形になっています。

出土した遺物の中には、縄文土器の破片が約50点ほどありました。縄文土器は、表面に楕円や山形・菱形などの文様をつけたものです。この文様は、彫刻した木の棒をころがしてつけたもので、押型文と呼ばれています。こうした文様をつけた土器は、縄文時代でも早期(約8,000年前)という古い時期のもので、

また、平安時代の土器には、「富」という文字が書かれていました。



墨書土器



墨書土器



土師器・甕



土師器・壺



土師器・高杯



土師器・高杯



縄文土器・深鉢



縄文土器・深鉢

縄文時代の年代を語る土器

志高遺跡は、由良川下流部の左岸の自然堤防上にある、縄文時代から江戸時代にかけて連綿と人々が住みつづけた大規模な複合集落遺跡です。数年間にわたる発掘調査によって出土した遺物には、各時代のものがあり、ばく大な量にのぼっています。

さまざまな遺物の中で、特筆すべきものとして縄文土器があります。縄文土器は、地表下4.3～6.5mの地点で出土しました。縄文時代早期から前期(約8,000年前)に属するものです。縄文土器の中には、近畿地方を中心に出土している「C」字や「D」字の刻み目が入る土器のほか、九州地方の影響を受けた土器など、さまざまな種類のものがあります。志高遺跡の縄文土器は、土器全体の形のわかるものが多いため、近畿地方の縄文時代早期～前期の土器を考える上で重要な資料となりました。縄文土器の研究の中で今後大いに役に立つと思われる。



縄文土器・深鉢



縄文土器・小型鉢



縄文土器・小型鉢



縄文土器・深鉢



縄文土器・鉢



縄文土器・深鉢



窯跡全景

1,300年前の須恵器作り

シゲツ窯跡は、由良川を挟んで志高遺跡の対岸に位置しています。

この窯は、須恵器を焼くためのもので、いわゆる登り窯という形態です。最下部のまきを燃やす部分は、すでに失われ、土器を焼く部分も一部削られていました。天井部も崩れ落ちた状態で見つかりました。壁や天井を細かく観察すると、補修した跡があり、長い期間にわたって何回も須恵器を焼くのに用いられたことがわかりました。窯の床面からは、焼かれた製品を最後に窯出した時に、放置された須恵器が出土しました。これらの須恵器の型式から、この窯は、7世紀後半(約1,300年前)頃に操業が行われていたことがわかりました。

また、この窯跡の近くで、直径約2m・深さ約30cmの大きさの、底の焼けた穴が見つかりました。この穴から出土した土器は、窯跡出土の須恵器と同じ時期のもので、この窯と関連したものと考えられます。



経筒埋納状況

末法思想が生んだ経塚

私市円山経塚は、由良川の北側に位置し、通称「円山」と呼ばれる標高約94mの丘陵の上に営まれました。

経塚は、末法思想が広まった平安時代中頃(約1,000年前)以後に、弥勒菩薩が56億7,000万年後の未来に「衆生」のために出現するという教えにしたがって、仏教の経典を保存する目的のために造られたものです。

私市円山経塚の構造は、直径1mの穴(土壇)を掘り、その奥にさらに小さな石室を築いて、経典を入れた銅製の容器(経筒)を納めたものです。この小石室の中からは、銅製の経筒のほかに、雁股式と呼ばれる鉄鎌が3点出土しています。また、経筒の中からは炭化物が出土していますが、これが経典なのかもしれません。

土壇の性格については、今回の調査ではよくわかりませんでした。土壇の中からは、土器が数点出土しており、この土器から経塚が鎌倉時代前半(約800年前)に造られたことがわかりました。



3号横穴遺物出土状況

丹波地方では新発見の横穴

綾部市の市街地から北へ約3.5kmほどのところにある丘陵上には、12基の円墳からなる栗ヶ丘古墳群があります。この古墳群の調査中に、丘陵の斜面で3基の横穴と土壇墓^{どこうぼ}10基が見つかり、昨年度発掘調査を実施しました。

横穴は、文字どおり山の斜面や崖面に「よこあな」を掘って、そこに遺体を納めた古墳の一種です。いずれの横穴にも、横穴式石室と同じように、遺体を納める部屋(玄室^{げんしつ})と通路の部分(羨道^{せんどう})があります。お供えに使われた土器などが出土していますが、その出土状況からこれらの横穴が1回だけの埋葬に使用されたことがわかりました。

土壇墓は、長さ1～3m・幅1mの長方形の穴を掘ったもので、ここからも、お供えされたと考えられる土器が出土しています。

栗ヶ丘古墳群には、前に調査された古墳を含めて、同じ時代にさまざまな形の墓があったことがわかりました。また、これまで横穴の少ない地域とされていた丹波地域に重要な資料を提供することになりました。



横穴・土墳墓出土須恵器



横穴・土墳墓出土土師器



調査地全景

なぞの掘立柱建物跡群

綾部市の西には犀川^{さいがわ}という由良川の支流があります。この犀川の西側に小西町田遺跡が位置しています。昨年度の発掘調査は、西部地区と東部地区に分けて行いました。

西部地区では、多数の柱穴を検出しましたが、整理してみると、10数棟の建物があったことがわかりました。出土した土器には9～10世紀(約1,100年前)の平安時代のものが多く、このなかには、「うわぐすり」をかけた土器である緑釉・灰釉陶器や輸入品である青磁・白磁^{せいじ}など、当時としては高価なものがあります。また、硯^{すずり}や文字が書かれた土器も出土しています。こうしたことから、普通の村というよりは、何か役所のような施設があったと考えられます。

東部地区は、弥生時代後期～古墳時代初頭(1,800年前)の村の跡です。地下50cmで溝や柱穴などが見つかりました。ゴミ捨て場と考えられる穴からは、近畿地方中心部(畿内地域)の特徴を持った土器が多量に出土しています。今回の調査は、丹波地方の弥生時代から古墳時代、また平安時代の状況を考える上で、大きな成果をあげることができました。



土師器・甕



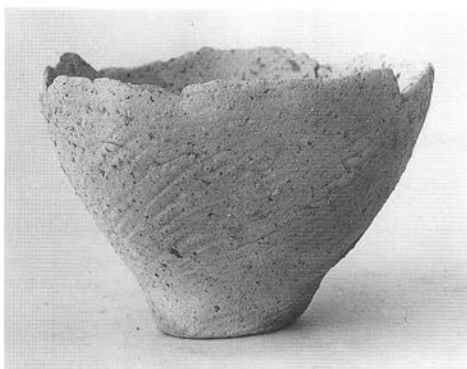
土師器・甕



土師器・器台



土師器・高杯



土師器・鉢



緑釉陶器・耳皿



調査地全景

正体不明の土壌群

三宅遺跡は、犀川^{さいがわ}を挟んで小西町田遺跡の対岸に位置します。このあたりは、台地になっていて、三宅遺跡もこの台地上にあります。

調査の結果、現在の水田と茶畑の土の下から、弥生時代～安土・桃山時代の溝・柱穴・土壌群^{どこうぐん}などが見つかりました。

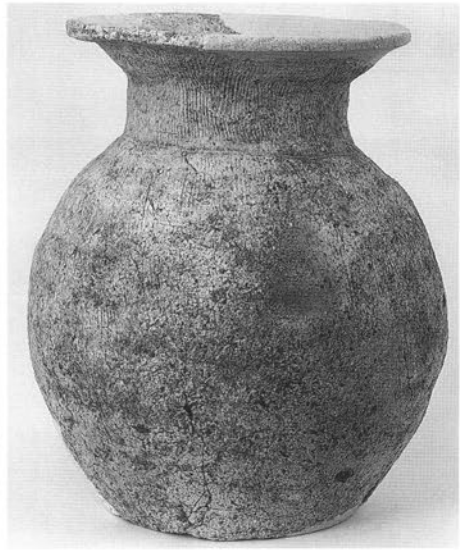
弥生時代の溝は、直線あるいは「かぎ」状に曲がるもので、「方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}」と呼ばれる墓にとりなるものです。この溝の中からお供えされたと考えられる土器が出土しています。

古墳時代のものとしては、前期の土器が入っている大きな穴(土壌)が約130基見つっています。この大きな穴は、当時の古墳に葬られなかった一般の人の墓か、もしくは粘土を採取した穴と考えられています。また、この多数の穴が密集する地点の西側には、幅約5mの溝があり、これから西側では土壌は見つかりません。

このほか、古墳時代後期の古墳も3基見つかりました。いずれの古墳も盛土の部分が失われており、埋葬施設は見つかりませんでした。



弥生土器・壺



弥生土器・壺



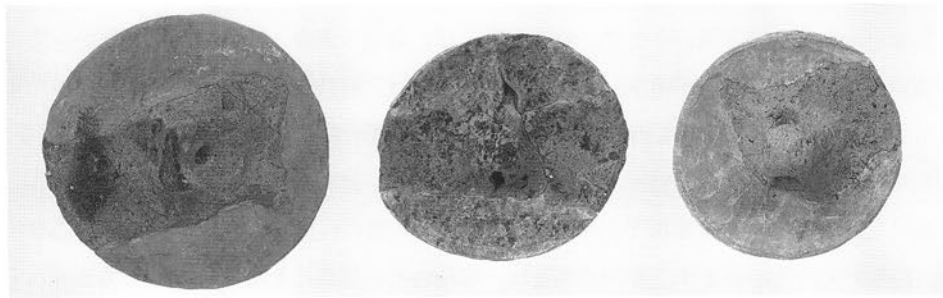
土師器・甕



瓦器・碗



瓦器・碗



鏡形土製品



調査地全景

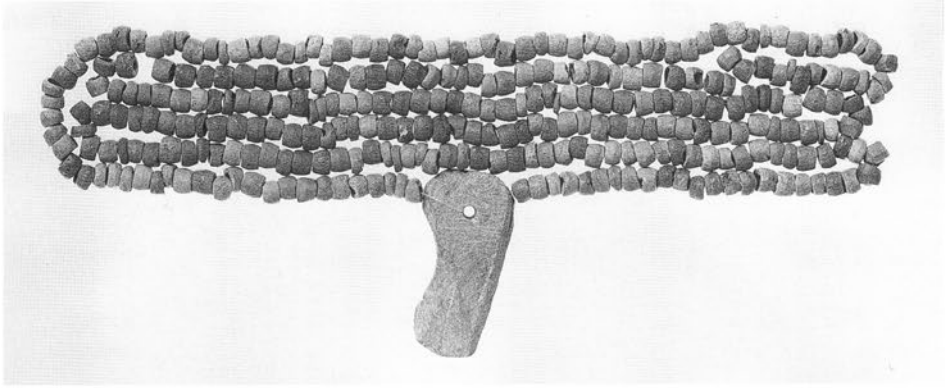
最古の須恵器を納めた古墳

福垣北古墳群は、丹波地方最大の以久田野古墳群^{いくたの}に属する古墳群で、小高い丘陵上にあります。

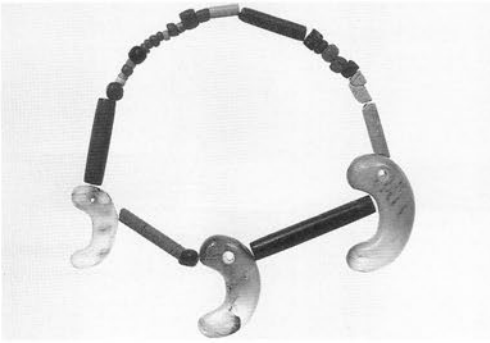
このうち、第2・3号墳は、丘陵のもっとも高いところにあり、尾根に直交する溝を掘って方形の古墳を築いています。いずれも、中央に1基の墓壇^{ぼこう}がありました。また、古墳の墳丘の斜面にも数基の墓壇が見つかりました。墓壇は、いずれも中に板材を箱形に組み合わせた木棺を入れたものと思われます。棺の中からは、鉄剣^{てつけん}・鉄鏃^{てつぞく}・小型の鏡・玉類が、また埋葬施設の上からは須恵器が出土しています。須恵器は、丹波地方でもっとも古いものです。

第4・5号墳は、いずれも円形の古墳です。第4号墳からは埴輪^{はにわ}が出土しています。また、第5号墳の埋葬施設は、割竹形^{わりたけがた}の木棺を粘土で覆^{おほ}っていたものと推定されます。

福垣北古墳群は、5世紀前半～中葉(1,600年前)に造られたもので、以久田野古墳群では古い時期のものといえます。今回の調査は、以久田野古墳群の形成を考える上で重要なものとなりました。



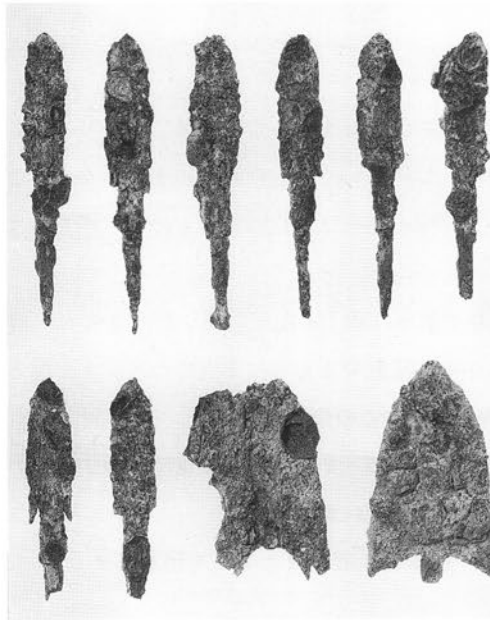
玉類



玉類



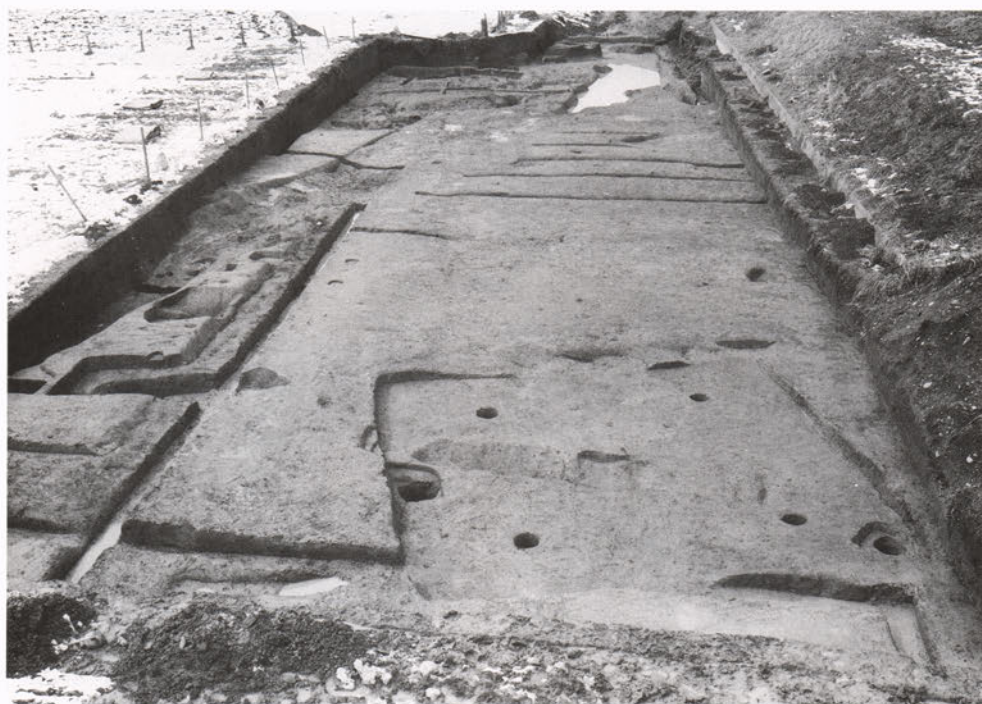
須恵器・甕



鉄鏃



須恵器・壺



調査地全景

由良川中流域の大集落

青野遺跡は、由良川中流域にあって、その南岸に位置します。この遺跡については、これまでに12回におよぶ発掘調査が行われ、弥生時代以後のいくつもの時代にまたがる大きな集落遺跡であったことが明らかになっています。今回の調査は、13回目のもので、調査地は青野遺跡の中でも西の端の部分にあたります。

調査の結果、地表下40cmで、^{たてあなしきじゅうきょく}竪穴式住居跡1基と、溝7本などが見つかりました。竪穴式住居跡は、一辺6mの正方形のもので、床からは屋根を支える柱を立てた穴が4か所と、中央に^ろ炉跡と考えられる土の焼けた部分があります。この住居跡からは、古墳時代前期(約1,700年前)の土器(土師器)が出土しています。このうち、2点の小型の壺は、薄手でていねいな作りのため、他の地域から持ち込まれたものと思われる。

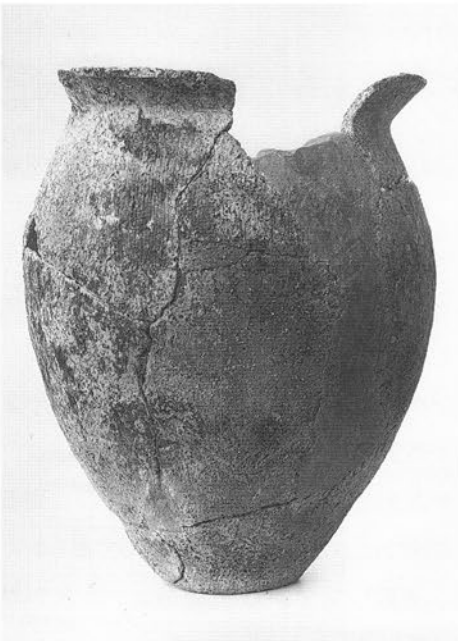
また、溝の中からは、弥生時代中期(約2,000年前)の土器がまとまって出土しました。



弥生土器・台付無頸壺



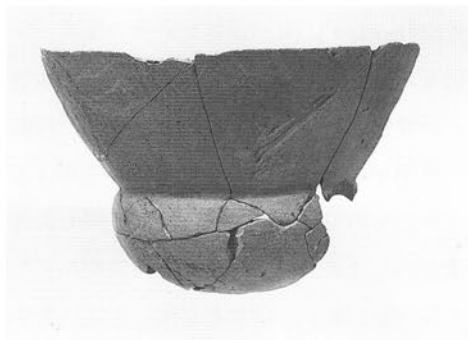
弥生土器・台付無頸壺



弥生土器・甕



弥生土器・鉢



土師器・小型丸底壺



堅堀検出状況

城を守る強固な堅堀

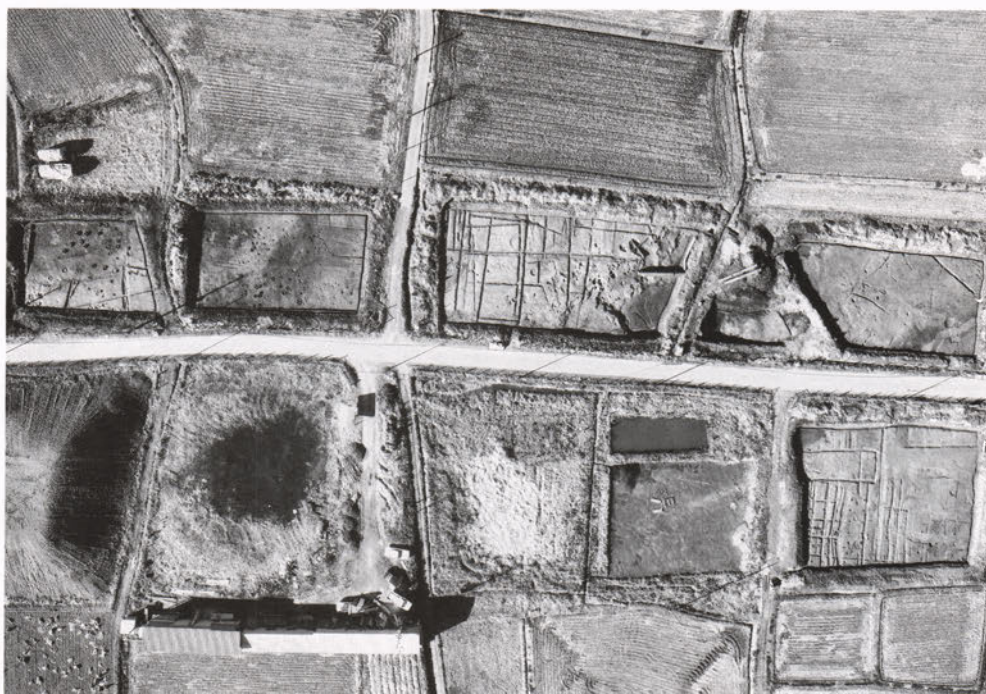
平山城館跡は、綾部市郊外の高城山の麓にあって、高城山にある城の支城と考えられています。

平山城館跡は、中城とも呼ばれ、室町時代(約600年前)に営まれた山城で、昭和61年度に調査を行った平山東城館跡や南側の高城とひとつのまとまりを持つと考えられます。

調査の結果、平山城館跡は2段の平坦地(郭)があり、それぞれの郭からは柱の下に礎石をすえた建物跡が見つかりました。また、西側の斜面では、谷に向かって連続して掘られた14本の堅堀や横堀が見つかりました。このように、連続してつくられた堅堀は、敵状堅堀と呼ばれるもので、土塁や堀切などと同じように、城を守るための施設です。

遺跡からは美濃焼・瀬戸焼・丹波焼などの陶器、中国製の磁器、国産の磁器(染付茶碗)などの陶磁器、碁石、硯などが出土しています。

今回の調査は、中世の山城の構造を考える上で、重要な資料を提供することができました。



調査地全景

強まる丹波国府説

亀岡盆地の西部で、行者山山麓^{ぎょうじゃやまさんろく}に位置する千代川遺跡は、昭和55年から12回におよぶ発掘調査が行われ、縄文～鎌倉時代の長期にわたる集落跡であることが明らかになっています。また、千代川遺跡の範囲内には、丹波国府^{たんぱこくふ}推定地が含まれています。今回の調査地は、この国府推定地の西端の部分にあたっています。

今回の調査では、奈良時代(約1,200年前)～鎌倉時代(約800年前)の建物跡、溝、井戸が見つかりました。しかし、こうした遺構と上記の国府との関係については、明らかにすることができませんでした。

また、文字の書かれた板(木簡^{もっかん})・土器なども見つかりました。この木簡は、荷物につける木の札ですが、「承和七年三月廿五日」と書かれていました。平安時代の年紀である「承和七年」は、840年にあたります。ただし、この木簡は、川の跡から鎌倉時代の土器といっしょに出土しました。



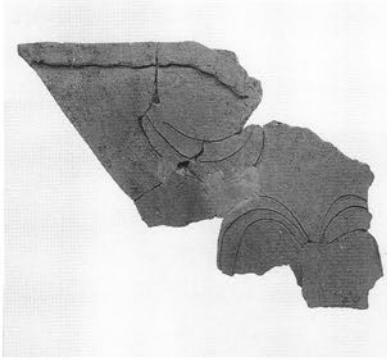
塚本古墳周濠 埴輪出土状況

長岡京にとりこまれた古墳

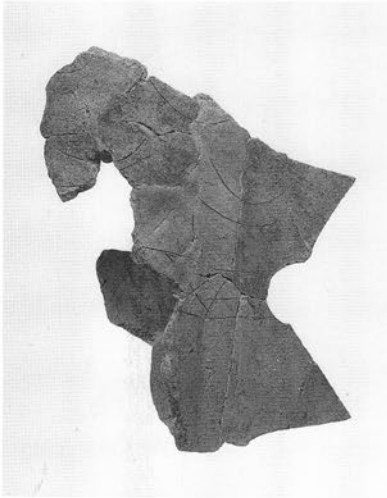
長岡京の右京六条二坊八町の推定地には、塚本古墳と呼ばれる古墳があります。

この古墳については、今回の調査地の南側で、以前に長岡京市教育委員会・勲長岡京市埋蔵文化財センターによって調査が行われています。そのときの調査で、全長32mの前方後円墳であることが明らかになりました。

塚本古墳は、すでに墳丘が削られてなくなっている古墳です。今回の調査でも、古墳のまわりを巡る濠(周濠)が確認されました。また、この濠の外側には、堤のような高まりがあったようです。濠の中からは、多数の埴輪の破片が出土しました。埴輪には、円筒形のもののほか、家や盾の形をしたものがあります。これまでの調査の成果からみて、塚本古墳は、古墳時代中期末(約1,500年前)に造られたと考えられます。また、濠の中からは、長岡京の存在した時期の土器も少し出土しています。都城の造営と古墳の存在を考える上で、重要な資料になるものと思われます。



盾形埴輪(部分)



盾形埴輪(部分)



円筒埴輪



家形埴輪



円筒埴輪



唐櫃(井戸枠)検出状況

井戸枠に再利用された唐櫃

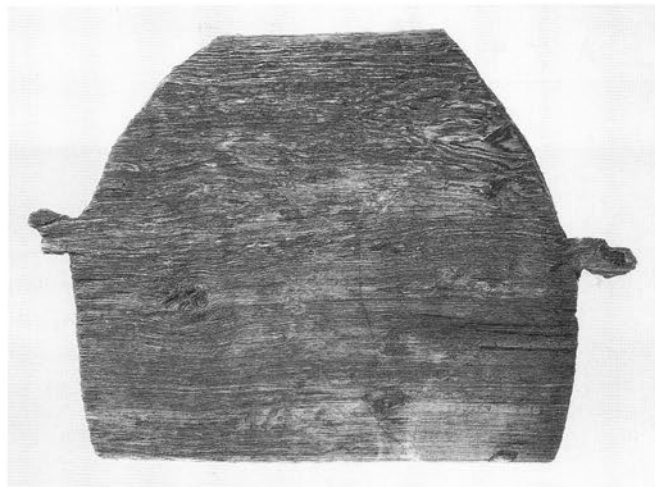
瓦谷遺跡は、奈良山の北側にあつて、大和の地域と密接な関係にあるところだす。

この遺跡は、標高100mの丘陵から西に開く谷と、その裾に広がる扇状地にあります。これまでの調査で、古墳時代の小型の古墳や円筒埴輪棺、遺物が多く流入した川の跡などが見つかりました。また、多量の土砂によって埋まった谷地形が見つかりました。谷の埋土からは、残りのよい土器・瓦・木製品が多数出土しました。遺物には、古墳時代前期～奈良時代のさまざまな時代のものがあります。

この谷で、唐櫃を井戸枠に転用した奈良時代の井戸も見つかりました。唐櫃は、板を組み合わせた箱型の容器で、角の部分には、黒漆が塗られていました。この唐櫃は、正倉院宝物の例のように、古文書などを保存するためのもので、都との関係が考えられます。今回の発見は、瓦谷遺跡の性格を考える上で、非常に重要なものとなりました。



鋤末製品



木棺小口板末製品



広楸末製品



土師器・甕



土師器・甕



調査地全景

古墳群と瓦工房

上人ヶ平遺跡は、木津町東部丘陵の中でもっとも平野部に突き出した丘陵上にあります。これまでの調査によって、弥生時代後期(約1,900年前)～奈良時代(約1,200年前)のさまざまな時代の遺跡であることが明らかになっています。

弥生時代では、^{たてあなしきじゅうきょあと}竪穴式住居跡が1基見つかっています。一辺約5mの正方形のもので、床面から焼けた木材、焼土、完形の土器が出土していますので、火災にあったことがわかりました。

古墳時代中期(1,600年前)の古墳は小型の^{ほうふん}方墳で、低い盛土をもつことがわかりました。埋葬施設の見つかった古墳からは、古い時期の^{すえき}須恵器や^{おの}剣・^{かま}斧・^{かま}鎌などの鉄器が出土しました。上人ヶ平5号墳では部分的に調査を行い、突出部(造り出し)を持つ円形の古墳であることが明らかになりました。造り出しの部分からニワトリ形の^{はにわ}埴輪が見つかりました。

また、調査地内の各所で奈良時代の瓦が出土しています。この瓦は、近くの市坂^{いちさかかわらがまあと}瓦窯跡で焼かれ、天平17(745)年以後の平城宮の再造宮に使われたものです。同じ時代の建物跡も見つかっており、この建物は、瓦作りの工房と推定されます。



ニワトリ形埴輪(頭部)



朝顔形埴輪



壺棺墓・土師器・鉢・壺



円筒埴輪



軒平瓦



須恵器・把手付碗



3・4号墓検出状況

墓前に立てられた装飾器台

西谷墳墓群は、丘陵上にある^{ほうけいだいじょうぼぐん}方形台状墓群の一つで、2～4号墓の3基の墓の調査が行われました。このうち3・4号墓は、すでに工事により半分が削られていました。

いずれの墓も丘陵の尾根の上であり、尾根に直交する溝で、それぞれの墓を区画しています。2号墓では、死者を入れたと考えられる^{ぼこう}墓壇が1か所と、性格のよくわからない穴が2か所見つかりました。墓壇の中から鉄刀が1点出土しています。3号墓は、墓壇が4か所見つかり、ここから^{まがたま}勾玉と^{くだたま}管玉が出土しています。4号墓には、墓壇が3か所あり、このうち1か所から鉄剣が2点見つかっています。

墓壇には、死者を木棺に入れて葬ったことが埋土の状況からわかりました。また、墓壇の上や周辺からはお供えされた土器が出土しています。これらの土器は、非常にいいなつくりの土器で、お供え用に特別に作られたものでしょう。

西谷墳墓群は、近年丹後地方で数多く調査されている弥生時代後期の台状墓の中でも、特にすぐれた内容をもつことがわかりました。



波路古墳全景

宮津湾を見おろす前期古墳

波路古墳は、宮津湾をのぞむ丘陵の最も高いところに築かれています。後の時代に丘陵が山城として利用されたために、古墳の形や大きさはわかりませんでした。しかし、多数の遺物の入っていた埋葬施設が残っていました。埋葬施設の墓壇は、長辺9m・短辺5m・深さ1mの長方形のもので、底は、さらに一回り小さく、U字形に掘り込まれていました。こうしたことから、棺には丸太を縦に割って中をくり抜いたもの(割竹形木棺)を使用したと考えられます。棺の西半分には赤い顔料(ベンガラ)が塗られていました。棺の中からは、矢を入れる容器(鞆)、槍、弓と思われる木製品、ヒスイの勾玉、ガラス玉が見つかりました。矢を入れる容器(鞆)は、全長87cmで中に矢を入れた状態で見つかりました。全体の形がわかるものとしては、全国初の資料です。また、木棺の外側には、土師器の壺が見つかりました。この壺は、小さな平底を持つものですが、底には小さな穴が3か所あけられていました。



調査地全景

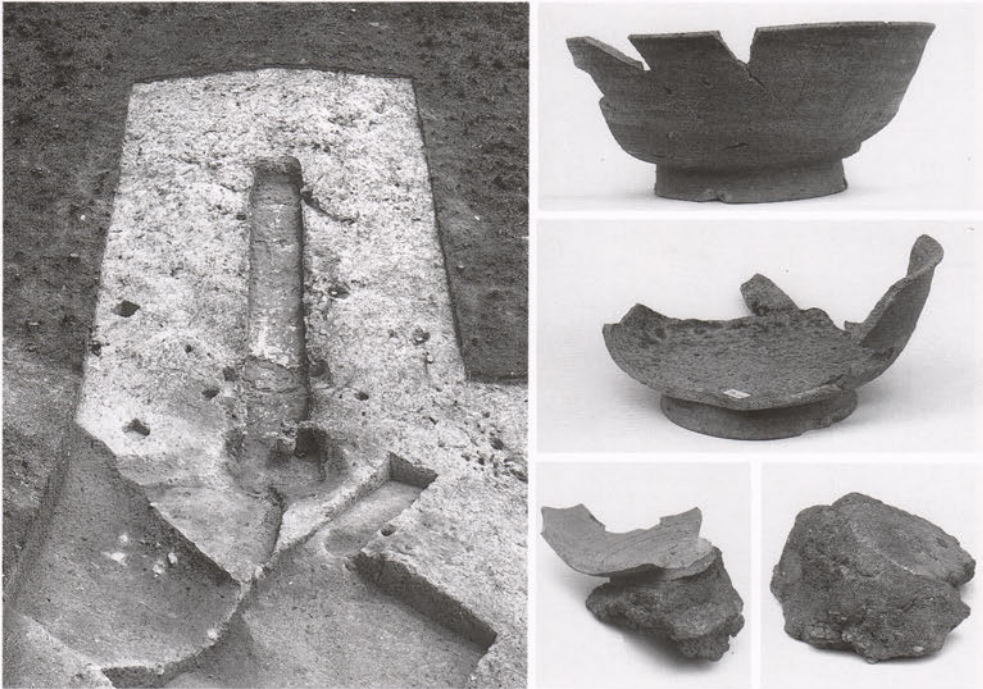
伽藍の全容を解明

観音芝廃寺は、亀岡盆地東南部にある奈良時代に創建された寺跡です。すでに廃絶して長く、その名前もわからなくなっていましたので、地名から「観音芝廃寺」と呼ばれています。伽藍は、後世の削平を受けていたものの、金堂と講堂に推定される2棟の建物跡、寺域を区画する溝や塀の跡が見つかりました。

金堂は、寺の本尊(仏像)を安置する建物です。金堂の跡は、従来からまわりより一段高い壇として残っていました。これは、基壇と呼ばれる建物の基礎部分です。基壇の壁面には瓦が積まれていました(瓦積基壇)。基壇の上面では、柱を支える石が3か所で見つかり、東西の柱間が5間、南北の柱間が4間の建物が復原されました。

金堂の北側では、東西の柱間7間、南北の柱間4間の大きな建物跡が見つかりました。この建物跡は、金堂跡と中心線が一致することから、講堂跡と推定されます。講堂は、僧侶が集まって説教や講義を行う建物です。

ただ、塔跡については今回の調査では未確認で、今後の調査の課題となりました。



左：窯跡全景，右：灰釉陶器碗と焼き台

関西で初めて発見された灰釉陶器窯

中ノ谷窯跡群は、京都盆地の北側に接する小盆地、岩倉盆地の北側の谷間にあります。この岩倉盆地には、飛鳥時代、奈良時代、平安時代を通じて須恵器と瓦の窯跡群が存在し、古くからの窯業生産地として知られていました。中ノ谷窯跡群は京都精華大学の敷地拡張地域となったため、発掘調査が行われ、奈良時代の須恵器窯跡2基、平安時代の灰釉陶器窯跡1基などが見つかりました。

中ノ谷4号窯跡と名付けられた灰釉陶器窯跡は、傾斜角度30度前後の斜面に築かれた半地下式のあな窯で、全長6.0m・幅1.1mあります。窯跡の中や窯の下方に堆積した灰原からは、灰、炭、窯壁片、焼き台、灰釉陶器片などと緑釉陶器の細片も出土しました。灰釉陶器の器形には、碗、鉢、壺などがあり、釉のかかっていない陶器片もあります。

灰釉陶器は高い温度でうわぐすりをかけた日本で最初の本格的な陶器で、その生産地は東海地方に限られると考えられていました。それが京都でも生産されていたことがわかりました。

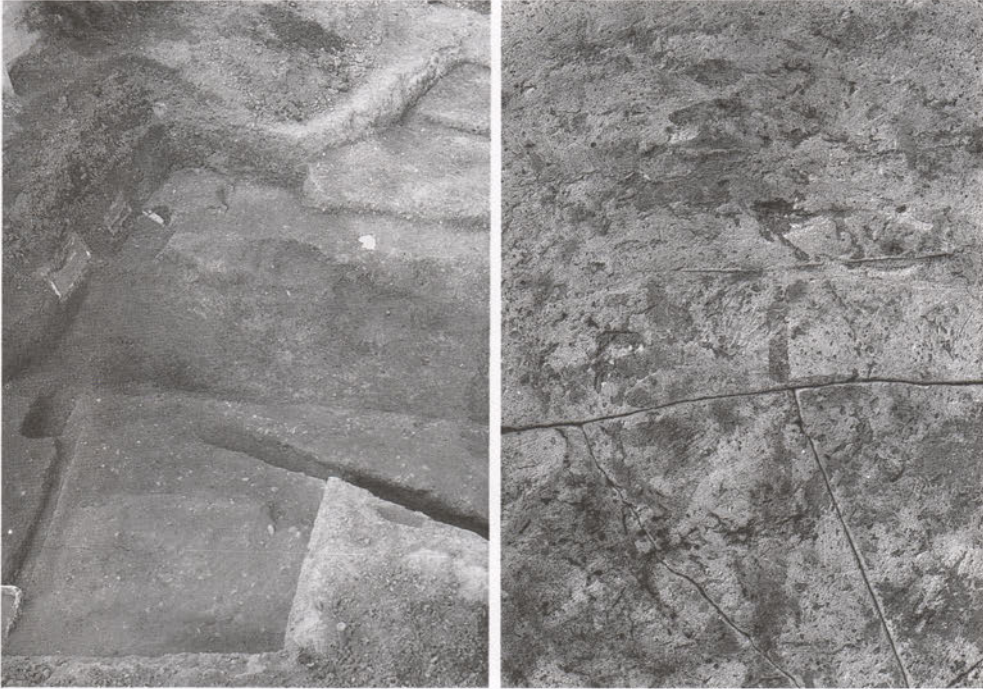


某役所西門に架けられた橋

某役所の西門と橋

長岡宮跡は、都の政治・行政機構を集中させた大官庁街です。その中心部に朝堂院・内裏等の重要施設が、その周囲には今日の東京の霞ヶ関のように各省庁が甍を並べていました。近年の調査の結果、省庁は京内の宅地(町)と同じく約120m(400尺)四方の区画を単位として、その機能に応じて配置されていたことが明らかになりました。長岡京の北端中央で発見されたこの門と橋の跡は、一区画の西辺中央に位置し、西門とわかります。

西門の面する道路は、大極殿院の北門からまっすぐ北へのびるメインストリートで、幅約30mの大通りでした。西門の南北両側には土塀が巡り、内外には排水用の溝が掘られていましたが、門の前だけは杭と板で保護されており、橋が架けられていたと考えられます。橋付近からは、「陰陽寮解申…」「青郷中男作物海藻六斤」等と記した3枚の木簡が発見されました。この区画の中に、税(中男作物)を扱う役所があり、占い等を専門とする陰陽寮という役所が門前の一角で、定例のお祓いをしたものと推定しています。



左：大蔵南東隅の溝，右：「主計」墨書土器

主計官の活躍

現在、日本の公務員の中で、もっとも力のある役人の一人に大蔵省の主計官しゅけい官という人がいます。国に集められた税金を管理し、その配分の具体策を提起する役職です。実は、この主計官は奈良時代からあり、当時は民部省みんぶしょうの主計寮しゅけいりょうに属していました。墨書土器「主計」は、往時の主計官の活躍ぶりを教えてくれる貴重な資料です。1984年、この調査地の北西に位置し、同じ区画の中に入るところで礎石の上に建てられた倉庫跡、倉庫の周囲を巡る土塀、石で組んだ池と溝が発見され、「大蔵」跡と推定されました。大蔵とは、全国から集められた税物を保管しておくための大倉庫群です。平安京では、役所の区画を8組も占有していることが知られています。この大蔵へは、主計官が税が正しく収められているかどうか、確認にやってくるシステムがあったと考えられていました。「主計」の文字は、これを実証し、かつこの一角が、長岡京の大蔵であったことを明解に示してくれました。

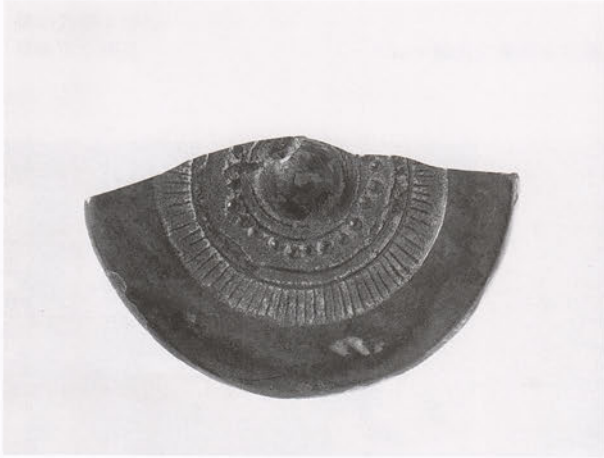


方形周溝墓群全景

方形周溝墓から銅鏡

馬場遺跡は、桂川右岸の低地に位置する弥生時代～室町時代の集落跡です。今回の調査では、周囲に方形の溝をめぐるした古墳時代前期の方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}が、南北に並んで3基見つかりました。南側の2基はほぼ完全に発掘されました。方形周溝墓群の南側は大きな溝で区画されていました。南側の2基の方形周溝墓はほぼ同じくらいの大きさで、一辺約10mで周囲に幅2.5～3.0mの溝がめぐっています。溝の中から、庄内式^{しょうない}と呼ばれる古式の土師器^{はじき}が多量に見つかりました。それぞれの中央には木製の棺の痕跡がわずかに残されていました。その1基の木棺^{どうきょう}の中から銅鏡1面が見つかりました。

銅鏡は、直径約7cmの小型の日本製のもので、全体の2/5が欠けていました。欠けた後も大事に使用されていたと思われる、割れ口がすり減っていました。この鏡は、その文様から珠文鏡^{もんきやう}と呼ばれます。方形周溝墓に鏡が副葬されていたのは近畿地方ではきわめて珍しい例として注目されます。



仿製珠文鏡(径7.0cm)



鏡の出土状況



土師器・壺



土師器・甕



土師器・器台



土師器・台付碗



土師器・高杯

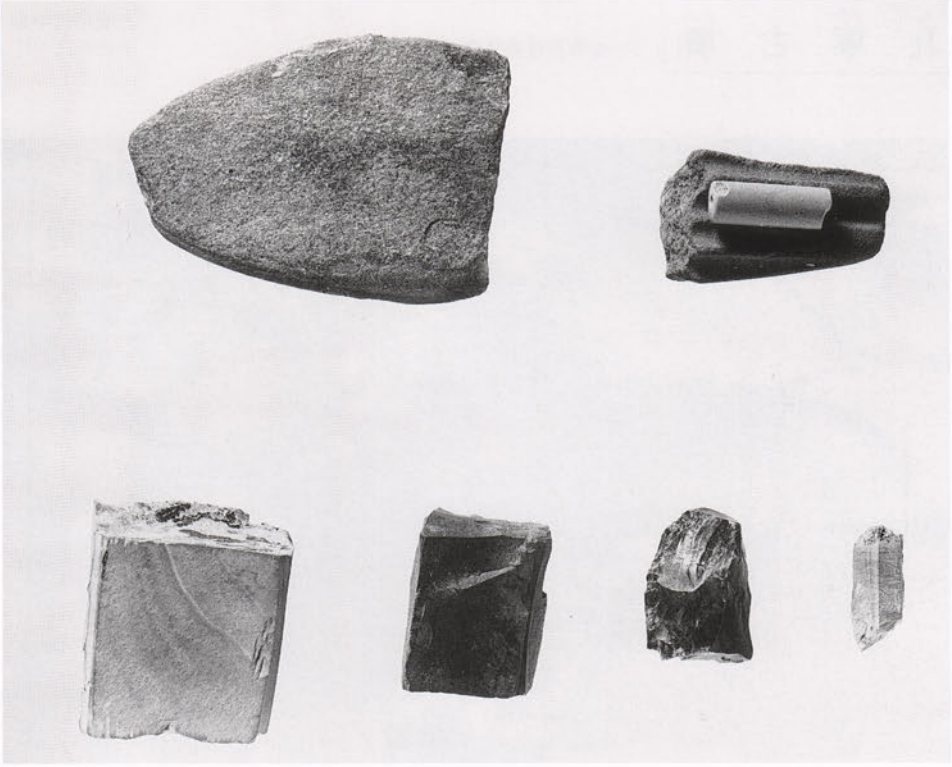


弥生時代住居跡群検出状況(左は南、右は北)

玉づくり工房と石器づくり工房

神足遺跡は、山城では代表的な大規模な弥生時代の集落跡です。遺跡は、桂川右岸の平野に接する低い台地上に位置し、過去の発掘調査により、弥生土器、石器などの多彩な遺物とともに、多数の^{たてあなしきじゅうきょあとかん}堅穴式住居跡群、^{ほうけいしゅうこうぼくぐん}方形周溝墓群、^{どこう}土壌墓群などがみつかっています。しかも、それらが区画を異にして営まれていることなどもわかっていました。

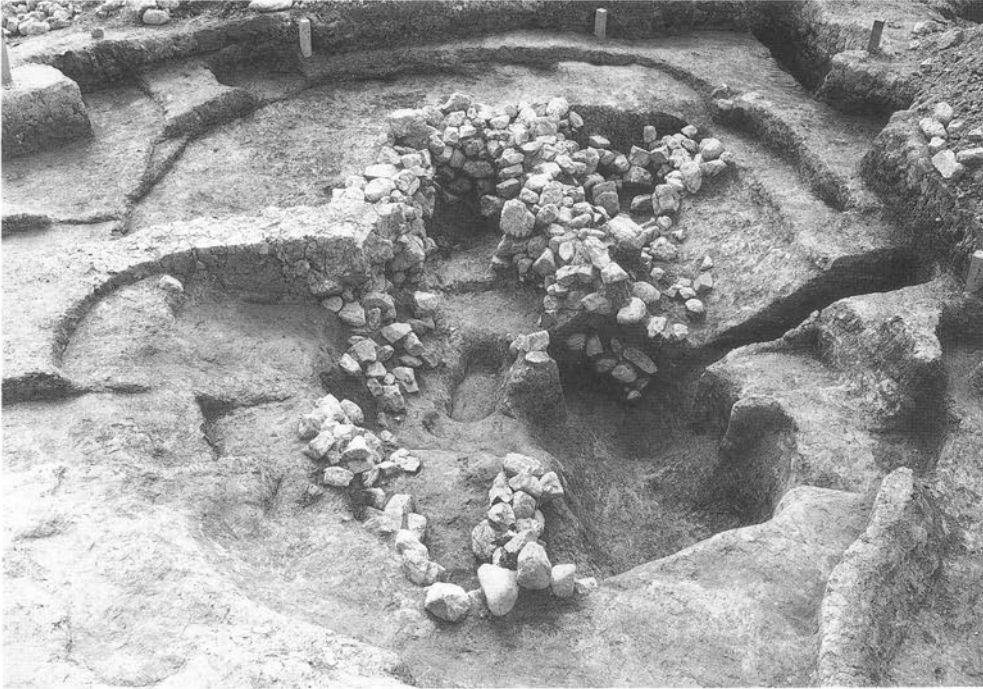
神足遺跡の昭和62年度の調査は、JR神足駅前の整備にともなって発掘調査が行われ、弥生時代の住居跡群、土壌墓群や古墳時代の住居跡群、長岡京跡の道路跡や建物跡群、近世の神足城の遺構などが検出されました。中でも、弥生時代の多様な遺構、遺物の出土は注目されます。弥生時代の住居跡は50棟以上見つかりましたが、そのひとつから^{たまといし}玉砥石と^{くだま}管玉の完形品が出土したことや、石剣などの材料である^{ねんぼんがん}粘板岩のかけらが多量に出土したことは特筆されます。過去の調査でも管玉の原石や^{いしのこ}石鋸および石剣の未製品が出土していたことから、この地で玉づくりや石器づくりが行われていたことがわかりました。



玉づくりの道具と材料(石鋸, 玉・砥石, 管玉, 管玉原石)



銅剣形磨製石剣と石剣の未製品



礫に覆われた埋葬施設(第1主体部)

朝鮮半島製の金銀製の玉杖

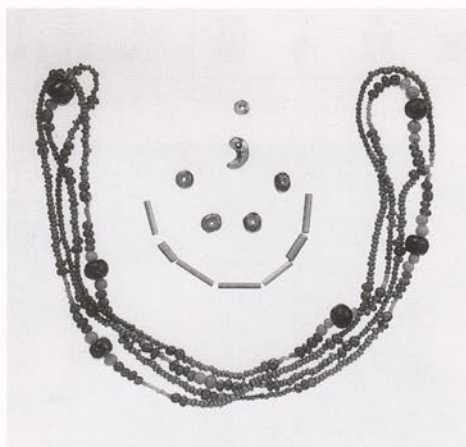
瓦塚古墳は、宇治川右岸の平地の水田の中に位置する、直径約30m・高さ約3mの円墳です。昭和62年度の発掘調査によって、墳丘が二段に築造され、斜面には河原石が葺かれ、古墳の頂上や、段の平坦なところには埴輪が並べられていたことがわかりました。埴輪には大小があり、大きい埴輪は小さい埴輪数本毎に一本並べられていました。大きい埴輪が朝顔形、小さい埴輪が普通の円筒形の埴輪と考えられています。

墳丘の頂上部では2基の埋葬施設が見つかりました。最初に埋葬された第1主体部は、木棺を河原石で覆う礫塚または、河原石で築いた簡単な竪穴式石室とみられるものでした。第1主体部の上に重複して埋葬された第2主体部は、箱形の木棺を直接土の中に埋めたものでした。第1主体部からは、数百個のガラス玉、金製・銀製金具付きの玉杖形金銅製品、鉄製の馬具の一部が出土し、第2主体部からは40本余の鉄鍬の束、刀子などが出土しました。

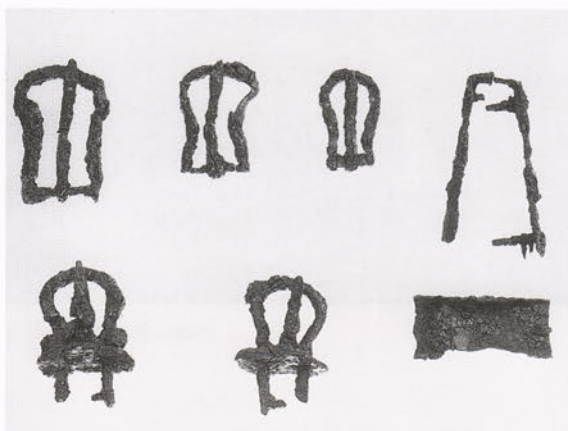
玉杖形金銅製品は、朝鮮半島製と考えられ、類例の少ない貴重なものです。



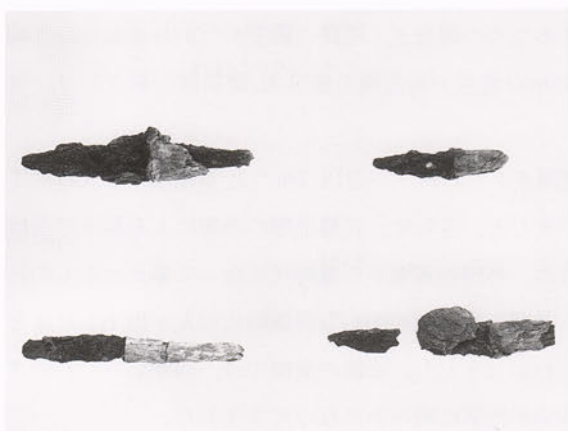
金製・銀製金具付きの玉杖形金銅製品



玉類



馬具（馬具）（鉸具・鞍金具・鐙）



鹿角製刀子



鉄鏃



塔跡の発掘調査状況

50年ぶりに発掘された塔跡

木津川右岸の段丘上にある高麗寺跡は、山城最古の寺跡として著名で、国の史跡に指定されています。昭和59年以来、範囲確認のための発掘調査が行われています。4年目に当たる昭和62年度には、寺域の東限を確認するための調査と、塔跡の調査が行われました。寺域の東限を確認する調査では、塔跡の東90mの地点で南北棟の掘立柱建物跡ほったてばしらたてものあとが見つかり、東門跡と推定されました。

塔跡は、50年前の昭和13年にも発掘調査が行われ、一辺12.7mの瓦積基壇かわらづみきだんの中央に地下式の中心礎石のあることが確認されていました。さらに、瓦積基壇の内側にも石積みの基壇が築かれていて、内側の基壇が飛鳥時代に、外側の基壇はくほうが白鳳時代になって築かれたものと推定されていました。今回の調査では、基壇の積み土の中から白鳳時代の瓦が出土したことから、塔跡も白鳳時代に造られたことがわかりました。塔跡の東側では、回廊かいろうからの石敷きの通路があることなど、伽藍がらん全体のようなすが次第に明らかになってきました。



塔跡東側の石敷通路



白鳳時代の軒丸瓦・軒平瓦



奈良時代の播磨国府系軒平瓦



奈良時代の軒丸瓦・軒平瓦



鉄釘



菱形飾石



調査地航空写真 朝堂院南限の柵列

朝堂院南限を確認

恭仁宮は天平12(740)年に聖武天皇によって営まれ、わずか4年で廃都になった短命の都で、廃都後は宮殿の建物の中心部は山背国分寺として再利用されました。

京都府教育委員会では、恭仁宮跡および山城国分寺跡を明らかにするため、昭和48年度以来発掘調査を実施してきました。その結果、恭仁宮の朝堂院や内裏などの中心部の遺構や、国分寺の伽藍のようすが次第に判明してきました。15年目の昭和62年度には大極殿西方のようすや、国分寺の西限の範囲確認を目指す調査と朝堂院の南端部のようすを明らかにするための調査を行いました。

朝堂院南端部の調査では、南限を区画する柵列が検出されました。この柵列は、東西方向に3m間隔で並ぶ一本柱列で、9本分を確認しました。柱は掘立て式で、東西1.7m・南北1.0m・深さ1.0m以上の大きな穴に直径0.3mの柱を埋めていました。これによって、恭仁宮の朝堂院全体の大きさを南北450m・東西120mと推定することができました。



朝堂院南限の柵列(東から)



西方官衙地区の掘立柱建物跡

展示品目録

番号	遺跡名	出展遺物	点数	時代	番号	遺跡名	出展遺物	点数	時代
1	アバ田古墳群	土師器	1	古墳時代・後期	11	三宅遺跡	弥生土器	2	弥生時代・中期
		須恵器	9	〃			土師器	2	古墳時代・中期
		鉄刀	1	〃			鏡形土製品	3	〃
		鉄斧	1	〃			瓦器	1	鎌倉時代
		鉄鏃	1	〃					
		勾玉	2	〃					
紡錘車	1	〃							
2	普甲古墳群	土師器	4	古墳時代・中期	12	福垣北古墳群	須恵器	4	古墳時代・中期
		鉄剣	2	〃			円筒埴輪	1	〃
		鉄斧	1	〃			鉄剣	1	〃
		玉類	一括	〃			鉄斧	1	〃
						鉄鏃	14	〃	
						玉類	2連	〃	
3	新ヶ尾東古墳群	土師器	1	古墳時代・後期	13	青野遺跡	弥生土器	4	弥生時代・中期
		須恵器	6	〃			土師器	2	古墳時代・前期
		鉄刀	1	〃	14	平山城館跡	天目茶碗	1	室町時代
		鉄鏃	10	〃			磁器	2	〃
		鉄のみ	1	〃			土師器皿	1	〃
玉類	4	〃	古銭	2			〃		
4	高山古墳群	須恵器	8	古墳時代・後期	15	千代川遺跡	墨書土器	2	奈良時代
		双龍環頭大刀柄頭	2	〃			須恵器	2	〃
		鉄刀	1	〃			木簡	1	平安時代
		鉄鏃	一括	〃	16	塚本古墳	家形埴輪	1	古墳時代・中期
		金環	4	〃			盾形埴輪	1	〃
						円筒埴輪	1	〃	
5	谷内遺跡	縄文土器	20	縄文時代・早期	17	瓦谷遺跡	木器未製品	2	古墳時代・前期
		土師器	4	古墳時代・中期			木棺小口板	2	〃
		墨書土器	2	平安時代			土師器	2	〃
6	志高遺跡	縄文土器	10	縄文時代早～前期	18	上人ヶ平遺跡	土師器	2	古墳時代・前期
7	ンゲツ窯跡	須恵器	13	奈良時代			須恵器	1	古墳時代・中期
8	私市円山経塚	銅製経筒	1	鎌倉時代			円筒埴輪	1	〃
		雁股式鉄鏃	3	〃			ニワトリ形埴輪	1	〃
9	栗ヶ丘横穴群	土師器	4	古墳時代・後期			鉄剣	1	〃
		須恵器	10	〃			鉄斧	2	〃
							鉄鏃	8	〃
							鉄鎌	1	〃
							鉄製刀子	2	〃
10	小西町田遺跡	土師器	11	古墳時代・前期			鉄製鍬先	2	〃
		土師器	6	奈良時代	ガラス玉	2連	〃		
		須恵器	2	〃	軒平瓦	2	奈良時代		
		緑釉陶器耳皿	1	〃					
以上、朝京都府埋蔵文化財調査研究センター出品									

番号	遺跡名	出展遺物	点数	時代	番号	遺跡名	出展遺物	点数	時代		
19	西谷墳墓群	土師器	12	弥生～古墳時代	24	馬場遺跡	土師器	8	古墳時代・前期		
		鉄剣	2	〃			鏡	1	〃		
		鉄刀	1	〃							
		玉類 (勾玉・管玉)	39	〃							
以上、野田川町教育委員会出品											
20	波路古墳	土師器	1	古墳時代・前期	25	神足遺跡	管玉	1	弥生時代・中期		
		玉類 (勾玉・ガラス玉)	4	〃			管玉未製品	1	〃		
以上、宮津市教育委員会出品											
21	観音芝庵寺	軒丸瓦	4	奈良時代～鎌倉時代			碧玉原石	3	〃		
		軒平瓦	2	〃			石鋸	1	〃		
以上、長岡京市教育委員会出品											
22	中ノ谷4号窯跡	灰釉陶器	5	平安時代			玉砥石	1	〃		
		緑釉陶器	1	〃			磨製石剣	1	〃		
		焼き台	2	〃	磨製石剣未製品	2	〃				
		以上、京都市考古資料館出品									
23	長岡宮跡 (南山遺跡)	墨書土器	4	長岡京期	26	瓦塚古墳	金製玉杖・銀製玉杖	各1	古墳時代・中期		
		土師器	1	〃			玉類	2連	〃		
		須恵器	1	〃			鹿角製刀子	4	〃		
		木簡	2	〃			鉄鎌	10	〃		
		瓦	3	〃			馬具	6	〃		
		石棒	1	縄文時代			円筒埴輪	2	〃		
以上、宇治市教育委員会出品											
27	高麗寺跡	軒丸瓦	3	飛鳥・奈良時代	27	高麗寺跡	軒平瓦	3	〃		
		菱形化粧石	2	〃			鉄釘	5	〃		
		鉄釘	5	〃			以上、山城町教育委員会出品				
		以上、京都市考古資料館出品									
28	恭仁宮跡	軒丸瓦	2	奈良時代	28	恭仁宮跡	軒丸瓦	2	奈良時代		
		軒平瓦	2	〃			軒平瓦	2	〃		
以上、向日市教育委員会出品											
以上、京都府教育委員会出品											

謝 辞


本展示を開催するにあたって、資料の調査・出展等に下記の諸機関の御協力を賜りました。記して深く謝意を表します。

京都府教育委員会・野田川町教育委員会・宮津市教育委員会・亀岡市教育委員会・(勅)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・向日市教育委員会・(勅)向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・(勅)長岡京市埋蔵文化財センター・宇治市教育委員会・山城町教育委員会・加茂町教育委員会

展覧会出品遺跡位置図



(表紙写真：平山城館跡)



主催 財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター
協賛 向日市文化資料館
後援 京都府教育委員会

1988・8・23(火)～9・4(日)